



古代における「西国文化の中心は明日香、東国文化の中心は群馬」は本当か？

桂東小学校 6年1組 安塚乃佑子

1. このテーマを選んだ理由

私は昨年、東国文化自由研究に応募し、奨励賞をいただくことができました。

6年生になって今年は何をやるかと考えていた時、ある人気のあるクイズ番組で「今夜、群馬のイメージが覆る！火山で埋もれた幻の古代都市を発見！1500年の眼りから覚めた古墳人が語る衝撃の古代史」の題で放送がありました。

群馬、てすこい！でも放送でやっていたのは古墳時代だけ。私が昨年取り上げた日高遺跡は登呂遺跡が縄文紀前に稲作文化を開花させるなどすこいんです。縄文時代はその前の時代だって群馬の古代はすこい！これを証明したい、そのまうな思いを胸に今年には古代における「西国文化の中心は明日香、東国文化の中心は群馬」は本当か？」をテーマに取り組むことにはしました。

2. 調べたこと (私の選んだ各時代遺跡代表)

(1)~(6) ※(2)は保存されていないため除く
に書いた遺跡は、群馬だけでなく東国を代表する遺跡ですので、ぜひ全国から見に来て欲しいと思います。

(1) 縄文時代代表「安瀬遺跡」

「上毛高原駅」より歩いて約20分の利根川沿いで発掘された縄文時代後期から晩期の遺跡になります。

1992年から3年間にわたって発掘が実施され、日本



で最初の出土例となった。四隅袖付炉を持つ住居を含む
 22ヶ所の、竪穴住居跡群からなる居住域、敷石立石列や水
場、水路を持つ共同作業場、110基近い配石墓群が集まる
墓域、直径50センチメートル前後の巨木を半切りに
並べた巨木柱列(関東地方では初の出土例)とその内側
に3つの立石からなる石組の祭壇をいつらえた祭し場が発見
され、現在国指定史跡となっています。

すぐ利根川が流れていることから採りたい時に魚を採れ
 るメリットがあり、札かしたら矢瀬縄文人が利根川で
 採った魚(いわなやますなど)と、三原田縄文人が採った
 動物(いのしやうまなど)、野菜(木の实やとんぐりなど)の
 物々交換などあったのではないかと思います。しかし、
 現代のようにダムによって水流をコントロールすることか
 できないため、氾濫などで家が流されることか多かた
 のではないか。そのためなるべくコンパクトなコミュニ
 ティを作っていたのではないかと感じました。



①



②



①



②



(2) 縄文時代準代表「三原田遺跡」

現在は、渋川市の三原田団地造成のため取り壊れていますが、縄文時代中期から後半の遺跡になります。

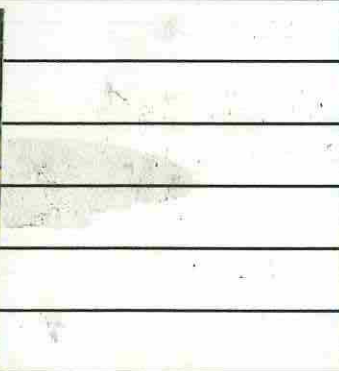
直径130mの環状の範囲に住居跡34(直径4mほどの円形竪穴を掘り、中央に石組みの炉を切った家)、墓・貯蔵穴等は1400以上からなる大規模集落が明らかになりました。

それから20戸ほどのムラが幾世代にも亘って営みを続けた遺構だということゆかり「日本だけでなく世界的に

重要な先史集落遺跡」と注目されていると書いています。今でも

三原田団地内の小さな公園に、数石住居を模したらいモニュメントがあり、千古の地、ここに「^{縄文}」と書かれています。

そこへ立ってみると、三原田縄文人と同じ風景を見ている何やらうれしい気持ちになりました。



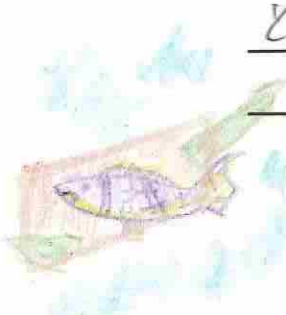
前方には榛名山を望み、また後方には赤城山がそび

(1)の矢瀨縄文人と比べると、動物や野菜を主食に生活していたのだと感じる。ムラとムラの交代という

面では、場所が斜面にあるということから及みられることなく、稲作文化が定着した弥生時代以降は、現在と同様に

斜面を利用して稲作するなどで、永い世代に渡り住み続けたのではないかと、そしてここに三原田団地ができた

理由は、きっと眺めの良さと町へのアクセスが良いこと、どの時代も人の望むことは変わらぬと思いました。



(3) 弥生時代代表「日高遺跡」

1997年におこなわれた関越自動車道建設に先立つ発掘調査の際に、弥生時代後期(2~3世紀頃)の水田跡(当時群馬県では初めて、東日本では登呂遺跡以来)などが発見されました。特に水田跡は、浅間山の噴火で降り積もった軽石(3世紀後半)に覆われていたため、保存状態が良く、あせも残されていました。さらに、水田に水を供給するためのぬるめや湯水の存在も明らかになり、稲作が行われていたんだと思いました。また、その後の発掘調査により、居住域・生産域・墓域がまとまって保存され、環濠も備えている重要な遺跡(約63000平方メートル)であるとして国指定史跡になりました。

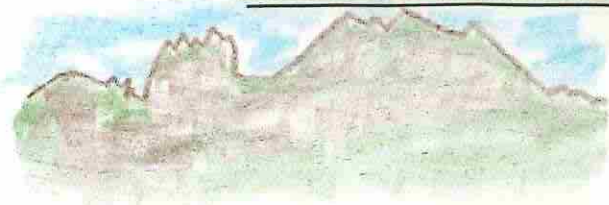


昨年見学に行きましたが、立地はどかどか誰もか憧れる平野部にムラがあります。水源のそばに水田、住まいなどを設置することでムラとして成長、まわりのムラも憧れるムラであったことから攻められることが多く、自己防衛のための環濠が設置されたのではないかと思います。



②

①



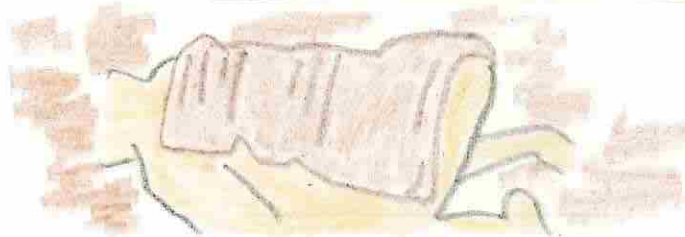


(4) 古墳時代代表「金井東裏遺跡」

榛名山の北東約8.5キロの扇状地の先端部分にある古墳時代後期の遺跡になります。2012年11月、国道バイパス建設に伴う発掘調査で6世紀に噴火したニッ岳の火砕流堆積物の下から、国内で初めておおいを身につけた状態の成人男性の骨が見つかりました。この成人男性は榛名山の方に何かでひかされておおいを身につけていた状態で、災厄を避ける儀式を行おうとしていた時に、急な火砕流に襲われたのではないかと考えられています。



この他、首飾りと一緒に見つかった女性(首飾りの古墳人)や5歳前後の幼児の人骨だけでなく、人の足跡や馬のひづめ跡、祭壇跡からは大量の土器も発掘されました。金井東裏遺跡に行く前、群馬県埋蔵文化センター発掘情報館に立ち寄りまして。そこから金井東裏遺跡方面を眺めると、榛名山が後方そびえ立っていました。しかし、実際に遺跡から上を見上げると、当時噴火を止めたニッ岳は望めないう状況でした。もしかしたら急に発生した火砕流によって襲われてしまったのではないかと感じました。当時活火山であった榛名山は、辺りを見渡すと田や畑、近くの榛東方面にはブドウ畑が広がっていることから利根川から近くで農業に敵む場所であったに違いなく、馬の大好きな牧草が生い茂っていた場所であったから、おおいを着た古墳人はここを選んで住んでいたのだと思います。





(5) 同様に古墳時代代表「保渡田古墳群」ハ幡塚古墳
 保渡田古墳群は高崎市(旧群馬町)にある100m級の三基
 の大型前方後円墳(即ち、たご山古墳、保渡田ハ幡塚古墳、
 保渡田薬師塚古墳)を中心として、5世紀後半～6世紀
 初頭にかけて造営されたもので、1985年に「保渡田古墳群」
 として3基まとめて国指定史跡になりました。

見学としたハ幡塚古墳は全長約96mの前方後円墳
 で後円部径約56m、前方部幅約53m、3段築成で葺石
 ・埴輪(円筒・人物・動物)を備えて、周囲には堀と埴
 内堀の中に4つの中島が設けられています。後円部墳頂
 には舟形石棺と竪穴式石室が、凡ソカツ出土遺物
 は馬具類などがあつました。



辺りを見渡すと見晴らしの良い場所に位置し、首長の埋
 ろう地にふさわしい場所にあるなと思ひました。近くには
 三ツ寺遺跡があり、ここでは大規模な居館跡が
 見つかったことから、ハ幡塚古墳はまた居住していた
 首長の墓であつたかも知れません。それから父から
 は、輪はてくらった王が殺されたように、いつかま
 にされた人の代わりという話を聞きました。生きたまま
 埋められていた時代があつたと思つておどろきました。

①



(6) 旧石器時代(教科書にはのっていない)代表

「岩宿遺跡」

岩宿遺跡は群馬県みどり市かさかけ町阿左美の小さな丘、リウ外接部部分に位置しています。1946年、切り通しの道となっていた岩宿遺跡を通りかかった相沢忠洋さんは、切り通しにろ出していた赤土(関東ローム層)から石器を発見しました。相沢さんはその後、何度となくその崖を調査し、赤土の中から次々に石器を見つけましたが、土器の発見がとまらぬことはありませんでした。当時は、15万年以上前の火山灰でできた関東ローム層の時代には、ヒトが住めなかったとわかれていましたが、自分が確かめた事実を信じて、1949年の夏、ついに誰か見ても疑いようのない黒曜石の石やりを発見しました。



1949年9月、発掘調査隊はそれまで未知の地層であった関東ローム層を調査し、ついにその地層の中から石器が出土することを確認しました。土器をともなわず、石器だけが発見されるた水縄文時代とは違う時代のものであると考えられ、少なくとも約35万年前と25万年前の時期があることがわかり、この時点で、岩宿遺跡の時代に異なる文化の段階があり、その岩宿時代が長い時期にわたっていたことが予想できました。



岩宿遺跡周辺には小高い山が点在していることで、獣が住み木の実もたくさん取れ、近くに沼もあるので魚など採ることもでき、住みやすい場所だったなと思います。

3. 自宅近くの遺跡発掘現場を見て

私の自宅近くの前橋市萩窪清掃工場の近くで遺跡の発掘調査を行っていて、遠目に4つの穴は家の柱跡だと分かりました。点状になっている穴は足跡なのかなと思います。



土の昔の地層まで掘り下げて、柱穴は掘られたところまで掘り進め、石器や土器などの遺物は刷毛などを利用して注意しながら行う発掘作業は大変だなと思います。遺跡の周りに積み上げられた土砂の中から土器を見つけました。何時代にも作られた土器なのか調べてみたいと思います。





父に話すと渋川にある群馬県埋蔵文化財調査
 センター発掘情報館に行き調べてみよう
 ということになりました。常設展示室には発掘した
 土器片を復元した土器がたくさん展示されてい
 ました。木ノクツから木ノクツ拾った土器片を出
 して比べてみると厚みがなく、装飾もあ
 っさりしていることから弥生時代の
 土器なのかなと思いました。



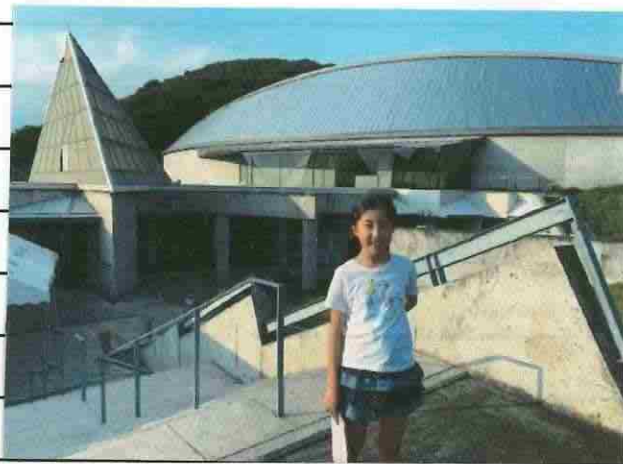
木の住んでいる近くにも弥生人が住んで
 いたと見ると、木の住んでいるところは住
 みやすい場所なんだと、弥生とつなが
 ることができたよなうれしい気持ちに
 なりました。





4.気づいたことや考えたこと

「東国文化の中心は群馬なのかな?」
 現在でも群馬県は自然災害が少なく日照、時間は全国第2位、農業ではモロヘイヤ・キャベツ・枝豆・ほうれん草・乳牛などが全国で上位にランキングされています。これらは古代から変わっていないと思います。古代の群馬県は、もと自然災害が少なく、獣や魚、木の实などが豊富、それがゆえに人が集まり、文化が発達した(東国文化が生まれた)のではないかと、人が集まることには文化が発達する。古代の群馬県は他の県よりも人が集まっていたのだと思います。群馬県は本当に良いところだと思います。私はこのような群馬県に生まれて本当に良かった。これからも東国文化の中心である群馬を全国に知ってほしいと思います。



参照

- ・古墳の森探検日誌 ホームページより
- ・三原田(群馬県)縄文の家族も見ていたこの風景が
- ・高崎市日高遺跡 ホームページより
- ・朝日新聞デジタル金井遺跡に関するトピックスより
- ・古墳マップ 保原田入幡塚古墳より
- ・ウケハデヤ フリー百科事典より
- ・岩宿博物館 ホームページより

